

寺町界限

TERAMACHI-KAIWAI

わたしたちの町の、わたしたちの情報誌。 7月号 ■発行/寺町のまちづくりを考える会事務局 ☎21-3461 ■通算7号

ろんちゃん

①月曜日
②11:00~19:00



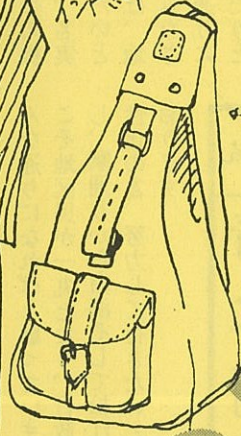
現地仕入れで、色々面白いものを
入荷して来ます!

夏に肌ざわりの良い
インボ綿の服。



二軒の季節
×キジコガウス・
琉球ガウスはいいか?

牛皮リュック
おまめです



PART I ①お休み
②営業時間

教室を主に
レザークラフトの材料を
売っています。

米子高島屋・畑百貨店
で、年一回ずつ
展示会を開催。

完成品の
展示販売も
ありです。



レザークラフトサロン

①金曜日
②10:00~18:00

■参加内容・日程のごあんない

参加費用/会費1万円(宿泊交通費、9/23(土)の昼食~9/25(月)の朝食代含む。市内交通費は個人負担です。)

応募資格/寺町のまちづくりを考える会々員、万代町・北寺町・南寺町・和多見町に住民票のある方、まちづくりに興味のある方のいずれかの人に限りです。

■発表は、7月下旬に直接本人に連絡させていただきます。(但し、応募者多数の場合は、地域性・活動歴等を考慮し、事務局で選考させていただきます。)

日時	月日	宿泊地
1	9/23(土)	松本
2	9/24(日)	新宿ワシントンホテル
3	9/25(月)	

9/23(土) JAS272 出雲空港 → 羽田空港 → 浜松町 → 新宿駅 → あずさ63号 松本駅 → ホテル
9:00 10:20 11:00 12:00 14:51
「下町」街なみ環境整備事業の見学

9/24(日) 貸切バス ホテル → 松本市内視察&観光 → 松本駅 → あずさ68号 新宿駅 → ホテル
14:42 17:36
「下町」街なみ環境整備事業の見学
松本城観光

9/25(月) モノレール JAS277 ホテル → ご出発まで自由行動 → 羽田空港 → 出雲空港
16:55 18:15
※第1便の飛行機で帰るコースも用意しています。

《応募要領》下記の専用ハガキまたは、官製ハガキにてご応募ください。(応募切/7月15日(土)必着)尚、参加者には後日アンケートにお答えいただきます。

キリトリ
POST CARD

6 9 0 - □ □

50円切手

松江市寺町199
錦弘堂食品店内

寺町のまちづくりを考える会 行

■ご住所 〒 _____

■お名前 _____ 年齢 () 才

■お電話番号 () - _____

■9/25朝便にて帰松の希望 [有・無]

■その他(何か質問があればお書きください)



ご参加下さい!
寺町のまちづくりを考える会
秋の視察
参加者募集!
募集30名
アルプスとお城と創造のまち
松本市(長野県)
国際コンベンションシティ/国際観光モデル地区



提案 します!!

またまたまちづくり

第一回

サンキチの
(官・民・専)
まちづくり

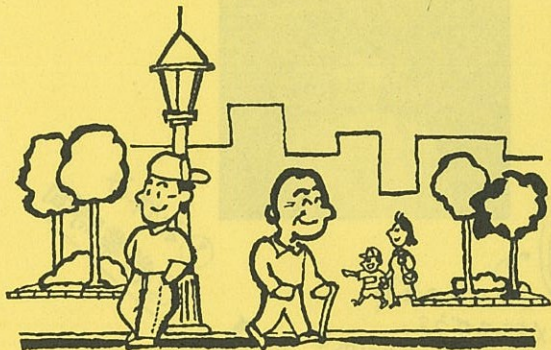
昔から、官(政治)、民(民間)、専(専門家)の三人の気狂い(?)が集まると、困難も成し遂げられるそうです。シリーズで皆さんのご意見を連載します。

官が 中村晴洋 市会議員

駅通り

「駅通り」、市民の大半の方々はこのように呼んでいます。我々白濁地区に生まれ育った住民はこの通りが松江市の中心的役割を果たす動脈通りとして生活して参りました。しかし、今日では経済の変化、人口の流出に依り、この周辺の空洞化が急テンポで進み、昭和二十年代とすっかりと街の形態が異なって来ました。この駅通りも当時は市内の娯楽街の中心として映画館も四軒もあり、又飲食店も建並び、大変活気が有りました。が、時が流れ、経済圏域が移り、今日では街ではなく、唯生活の通過地点、通過通りになろうとしていきます。しかし、長年親しんだ街、駅通りをこのまま住民の一人として、放置する訳にはゆきません。幸いに二度目の道路拡幅問題が具体的に動き出し、現在関係住民の皆様の御理解、御協力をいただき積極的な取り組みがなされているところであり、今白濁地区は駅通りの拡幅、県立美術館の建設、駅前整備、放送大学センター設置、等々、

大きく変わろうとしております。この機を逃がす事なく、再び駅通りを、名実ともに松江の大通りに蘇生させたいと願っております。私はこの通りは、地区民の皆様はもとより、市民のみならずが安心して歩いていただける通りになればと思っております。ゆつたりとした左右の歩道に松江の花木を植え、夜はガス灯を点灯させ、その下を歩き整備された白濁公園から美術館へと散策出来る様、又、道路が拡幅整備された駅表通りは統一された松江風商店街が並び、ショッピングの人々が続く、こ



「寺町のまちづくりを考える会」

「寺町のまちづくりを考える会」——私がこのまちづくりにひかれたのは理由がある。私の父が地元の町で町づくりの会に入っているために、「まちづくり」というものに対して、無縁ではなかったからだ。私の地元とは飯石郡赤来町のことである。そのプロジェクトの最終目的の一つに「人々(特に若者)の定住化」がある。そのために例えば、赤来町を離れる人(多くは中・高等学校を卒業し、地元外に進学や就職する人)へ、以降三年間「赤来広報」という月間報を送る、や、近畿赤来会、広島赤来会という会を結成し、定期的な会合(この時、赤来町側が大阪、広島の会場で神楽などの出し物をし、交流を深めている)を行っている。月単位で

民が 清水明子 島根大学生

んな通りになればと願っています。今こそ地区民が一丸となり、行政を動かす、駅通りから白濁そして松江市の活性化の為、努力して行きたいと思っております。

専が 福田玲子 広葉樹文化協会事務局

木と友達になれる道

家の前の道に続く小学校の通学路は、峠といえ少しオーバーな小さな山道でした。拡幅によって車も通る切り通しになったのは、隣のひろみちゃんが小学校2年生の時でした。新しい通学路はつまらないと言ったひろみちゃんの言葉が頭から離れない私は、市の道路にもかかわらず勝手に桜の苗木を植えてしまいました。毎春、市役所のロビーで予約販売される種々の桜の中から、染井吉野と鬱金をそれぞれ二本づつ。ひろみちゃんは高2の女学生となり桜の花の下を通うようになり、道行く人たちは「ああ、花がさきましたね。」といつて通るようになりました。

縄文の昔、森の恵みによって生活をしてきた遠い記憶と、四季の変化に伴って変わる雑木林から、多彩な文化を形成してきた、長い年月とによって、私たちは、木に対して安堵感や懐かしさや憩いを感じ、また一方では美しさや畏敬の念をいだくのだといわれます。木の実を摘んだり拾ったり、頭上の梢を眺めたり花咲く小枝を手折ったりして、木と友達になることのできない道をつまないと感じるひろみちゃんのように、我々、日本人には草木と共生した縄文の遠い記憶が刻まれているわけです。



街にあって新しい道路や建物ができるとき、それがどんなにすばらしくても、なにか未完成に感じられる場合は、充分な緑がないからだと思えます。無機質な建物の側に木が植えられると周囲に表情が生まれます。やはり建物と緑を一体に考え、構築されてはじめて、完成されたものになるのだと思います。拡大して、街にも樹木が植えられ、街路樹が整備されると、モノクロの下絵に彩色されたように表情のある街が創出され、遠い記憶をたどって人々があつまってくるようになるでしょう。ひろみちゃん達、若者も街の緑をおしゃれと感じてくれることでしょう。

オフィシャルからパーソナルなタウンシーンまでを、トータルで提案いたします。親と子、お母様とお嬢様のファッションをチャタリングに、メッセージしています。お気軽に、お越しくださいませ。心よりお待ちしております。

Price (春～夏)

スー ツ	36,000～	カットソー	6,900～
ワンピース	29,000～	ニット	12,000～
ブラウス	9,800～	バッグ	25,000～
スカート	12,000～	その他	
パンツ	13,000～	アクセサリ、スカーフ、ベルト	
ジャケット	14,000～	クツ、ハンカチ、ネクタイ etc.	

〒690 松江市寺町203 TEL 26-5498
オープンタイム 10:30～20:00、毎週火曜日定休

した企画が作られ、実行された。前者にしても後者にしても、案が出てから実行に移すまでの期間がわりと早かったと思う。口だけでなく、実行している事が目に見えることで、町民

のやる気に多少なりとも火をつけることが出来たのではないかと考えている。私は住民すべての心の豊さがいけば終局の目的であり、最大の目標であると思っている。では、これらのことに対し、寺町はどうであろうか。私達は、将来的に寺町は、全体のコンセプトの「時間、消費を楽しめる街」ということを考えつつ、同時に「松江市の発展と情報・流行・物産の中心地となる」があるべき姿と考えている。駅前という立地条件の良さ、寺町という趣き深い土地柄、が幅広い年齢層の一般客、観光客をとらえることが出来るのではないか。または、人々が世代を越えてそこに住み、そこで働き、そこで憩い、そこで楽しむ。山や川の自然的環境や歴史的条件、庶民性や人情味といった住民の意識や態度をも含めて深く掘り下げ、視野を広げて、我が町の魅力は行きずりの観光客の感ずるそれではなく、住民自身の生活感覚で提え住民自身が心から納得するものでなければならぬ。寺町であるならば、住民自身が我が町の魅力だと思ふことの源を捜す。「寺町」——この町は名前のとおり寺が多い。実際、フィールドワークで寺町を訪れた時、肌で感じた。寺町のシンボリック的存在にある寺々を生かした「まちづくり」を考える。ただいずれにしても、成功の鍵は、住民の心の豊さの向上にかかっているのではないだろうか。